

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせた作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

エントリー学校名：同志社中学校

活動名：※どのような課題をどのような手法で解決したのか、わかりやすく伝える活動名を記入してください。

主タイトル (12 文字以内) 同中学びプロジェクト

副タイトル (16 文字以内) 生徒と教職員が共に育ちあう空間

解決すべき課題：※活動を行う前に、課題や目標をどのように設定しましたか？視点などを含めて記載してください。

【課題】「教えなければならぬから教える」「学ばなければならぬから学ぶ」という関係からは学ぶ喜びは生まれにくいと考える。【生徒に対して】学校に既存する教科やクラブ活動内容を発展的に拡張することで、生徒には広い視野と新しい学びを提供する。【教職員に対して】PBL、カリキュラムマネジメントの発想の土台となる経験の場、教職員としての教える喜びを実現。教職員のプロジェクトマネジメント経験の小さな積み重ねとなる機会を提供する。

目標・方針：※課題を解決するためにどんなストーリーやシナリオを構想して、活動内容を組み立てたのか、記載してください。

【目標・方針】学びを創造する力、他者と協働する心構え、学びを俯瞰し未来への希望を、生徒と我々教職員が獲得することを目標に、「学びプロジェクト」(以下、「学プロ」)を設定した。教職員が「教えたいと思っていたこと」や「今教えたいこと」を実現し、生徒も学びたい内容を自らの意思で選択し、生徒の「学びたい」と教職員の「教えたい」が重なり合う学びの空間となる。すべての教員が小さなプロジェクトを立案・計画・実施できる環境。

活動内容：※目標・方針に基づいてどのような活動を行ったか、また、複数の活動を展開した場合はその位置づけや関連性を記載してください。

【いつ】放課後・土曜日。部活と学プロは競合するが、生徒は自分の意志で選択できることを生徒・教職員で一致。(2020 年度は、コロナ禍の下、リスク管理上、ZOOM などのオンラインに限定されたが、世界的なパンデミックであったためインドや香港、韓国、台湾の学校や大学生とのコラボレーションがやりやすく良かった面もある)

【何を】各教職員の教科を出発点にした企画内容を立案し実施する。【どこで】内容によるが、教室、フィールドワーク、海外など。【どのように】教職員がプロジェクト(立案・宣伝・実施・総括)一連について責任をもって行う。【その他】成績には関係ない活動とし、その中で学ぶ喜び教える喜びを追求する。小さなプロジェクトをマネジメントすることによって小さな実現実感が積み重なり、プロジェクトマネジメントの経験値を向上させる。

活動の成果：※課題設定に対して、どんな影響、変化あったか、参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

#1.企画(プロジェクト)数は年々増加(図 1. 企画数の推移)。2020 年度は 11 月現在で 240 以上。
#2.集まった生徒たちに対して嬉しそうに笑顔で教えている教職員の姿がみられるようになった。企画終了時、生徒は本心の「ありがとうございました」と笑顔があり、教職員は生徒の感想に本心から励まされている様子があった。今年初めて学プロの企画を実施した教職員は、「初めてやったけど、こんな世界があったんだとわかった。ほんとに熱心に聴いてくれるしすごいなあ！」と報告に来てくださった。**#3.発展的な内容は、教職員の思考リミッターを解放させやすく、既存の教科内容を超えた PBL やカリキュラムマネジメントの原始体験(教職員力量向上のロジスティクス)となり、学プロ→授業という応用例がでてきた(図 2. テーマ例)。**体育/技術科でコラボ企

画(アスリートの食事管理とアプリ作成)、香港へのグリーティングカード(英語/美術/技術)、地元の駅をよくする八幡前駅プロジェクト、見学ツアー(カミオカンデ見学、明石海峡大橋見学等)、地域課題「すぐき漬けを絶やさないプロジェクト」(社会/美術/技術)、アジア諸国の生徒が集まって、異国のメンバーでロボットプログラミング等の活動を協働で行う Asia STEAM Camp など(図 3.「すぐき漬けを絶やさないプロジェクト」他)**#4** 授業ではないので指導手順や計画実施の諸手続きをスキップさせやすく、すぐに学外の方々とつながることができ、最前線で活躍する大人や海外の人々と接することができた。それは同時に学外の方々にとっても「中学生の発言や議論ができた」ことに充実感を持ってくださっているようである。**#5** 既存の教科枠を超え、様々な立場の人との討論や、企画実施を通して生徒たちの主体性の変容がみられた。最初は興味関心から教員の企画に参加していたのだが、そのうち「環境問題に対する内容が少なくて、もっといろいろな場面で環境問題を取り上げてほしい」など内容のリクエストをするようになり、最近では学プロ時間の企画や運営を自分たちでやろうとするものがでてきている。学びを俯瞰するような発言が増えてきている。(図 4.教員のサイクルと生徒の主体性の変容)

アピールポイント(アイデアや工夫)：※3~5 つ程度、箇条書きしてください。

#1.放課後や土曜日は部活動と競合するため、それを緩和するために学校として活動の優先順位を明示した。
1.学び(補習や「学プロ」) **2.自治活動(クラス・生徒会)** **3.クラブ活動。**生徒に自己決定権があるとした。これはある意味で新しい放課後の過ごし方の提案にもなった。**#2.教職員は企画内容を「各自の教科を出発点とした内容」とすることで、学プロのコンテンツの中心部を明確にした。****#3.生徒にとっても教職員にとっても自然で本心からの「学び」を創造する時間である目標に鑑み、教員ノルマにせず自発性に依っている。「楽しい学び」を口コミで広げる学内の小さな運動みたいなものとした。**今年度全科目の教員がかかわることができた。(図 5. 口コミで広がる学プロ企画)**#4.学内データベースを自作し、全教職員がいつでもどこからでも企画登録可とした。**学びの足跡を管理(教員の企画登録、生徒の申し込み登録、気づきノート送信)。年間 MMP (Master of Manabi Project) というアワードを設定し、緩やかにユーマラスに参加を励ましている。

図 1. 企画数の推移

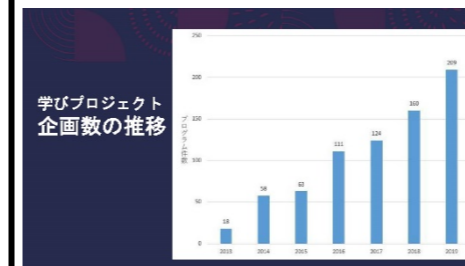


図 2. テーマ例

番号	テーマ
10	環境・英語・美術・ICT
22	環境・英語
42	環境・英語
49	環境・英語・ICT
100	環境
118	環境・英語・ICT
130	環境
142	環境
143	環境
152	環境・英語
167	環境・英語・ICT
174	環境
181	環境・英語・ICT
195	環境・英語
200	環境・英語・ICT
225	環境・英語・ICT
230	環境
236	環境・英語・ICT

図 3.「すぐき漬けを絶やさないプロジェクト」他



図 4.教員のサイクルと生徒の主体性の変容

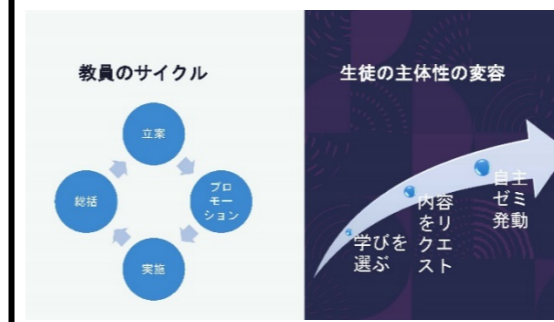


図 5. 口コミで広がる学プロ企画

